



新屋小で授業

高商大学生と 森の働き学ぶ

甘楽

高崎商科大の学生が
森の働きについて教え
る授業が16日、甘楽新

屋小であった。4年生40人が、土砂崩れを防いだり水をきれいにしたりする森林の役割を学んだ。

同大の3、4年生20人が林野庁が作成した教材を使って教えた。児童は班ごとに感想をまとめ、写真、「水を飲むときは森から来ていることを意識したい」「間伐して日光を当て、木を強くすることが大切だと分かった」などと発表した。

授業を受けた山田優大さんは「大学生が優しく教えてくれて分かりやすく勉強できた」と話した。

同大は2021年、日本名水百選「雄川堰」の水源で採取したボトルドウォーター「かんらの天水」を町と共同開発。森の大切さを伝えようと、町内の小学校で授業を続けている。

（丸山卓郎）